



ホームページを開設。
担ぎ手の確保と観光振興に
つなげたい

太鼓山保存会会長

名越 寿生 さん(47)

私が子どもの頃、太鼓山の叩き手はヒーローでした。今は子どもの数が減ったので、近くの小学校で募集をかけ、叩き手を育てています。山の担ぎ手は100人以上必要ですので、人数を確保するために、この6月からホームページを立ち上げ、担ぎ手を広く募集しています。全国の方々に祭りのことを知ってもらい、種子島の観光振興にもつなげていきたいと考えています。
<http://taikoyama.main.jp/>



太鼓山

西之表市西町／八坂神社
たいこやま

140年の伝統と島の誇りを担ぐ、勇壮な祭り

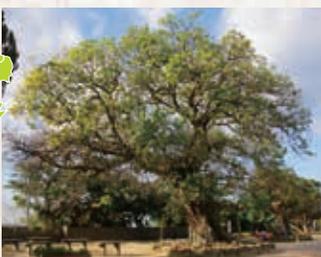
8月下旬の日曜日、西之表市では島最大の祭り、「種子島鉄砲まつり」が行われます。火縄銃の轟音と共に始まる勇壮な行列を見ようと、1万人を超える人々が集まります。

その先頭を切るのが「太鼓山」です。「チョッサー」、チョッサー、「サセ、サセ」という勇ましい掛け声に合わせ、白装束の男衆1200人が、櫓の上に太鼓と叩き手の4人の小学生を乗せた太鼓山と呼ばれる御輿を担ぎ、西町の八坂神社から下西湊泊漁港近くの王之山神社までの往復約7キロメートルの道を練り歩きます。

「太鼓山は市の無形民俗文化財に指定されている伝統行事で、今年開始から140年を迎えます。元々は八坂神社祇園祭の行事でしたが、2006年から鉄砲まつりの中に組み込まれました。」こう話す太鼓山保存会会長の名越寿生さんは、太鼓の叩き手として子どもの頃から祭りに参加してきました。「チョッサーは『長傘』で、恵みの雨と嵐の象徴です。サセは『傘をさす』こと。『長傘をさす』という掛け声には五穀豊穡と豊漁、航海安全への願いが込められています」

鹿児島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな伝統行事・祭りが残っています。今回はそんな伝統行事の中から「太鼓山」をご紹介します。

最大の見せ場は、昼過ぎに行われる甲女川での川渡りと太鼓山の横倒しです。太鼓山を担いで川を渡り、広い通りに出たところで左右90度に倒します。「川渡りは王之山神社と縁の深かった平家落人の鎮魂を意味し、横倒しは他の神社への敬意を示す所作と言われます。子どもは太鼓山から落ちそうになりながらも太鼓を叩き続け、祭りを通して男の勇敢さを身につけるんです」と名越さん。山に掲げる日章旗にも意味があるそうです。「日の丸は、元々は種子島家の船印でもありました。太鼓山は島の誇りをまもっているのです」。今年の勇姿は、8月23日に見ることが出来ます。



西之表市

西之表市は、昭和33年、旧西之表町の市制施行で発足した総人口16,266人(平成27年4月末日現在)のまちです。種子島北部に位置し、種子島の総面積の約45%を占めています。マリンスポーツが目当ての観光客も多く、温暖な気候が特徴です。写真は西之表市立榕城小学校校庭にある「アコウの大木」。樹齢460年といわれる巨木は樹高約12m。太い幹と細い枝が特徴で、西之表市の市木でもあります。